

大村神社のクシマザクラ

クシマザクラ（学名：Cerasus serrulata 'Kusimana'）は、1947 年に大村神社の境内で見つかった。

これは、桜の八重咲栽培品種であるサトザクラの一種である。大村神社近くで見つかったもう 1 つの珍しい桜の品種であるオオムラザクラと比べ、少し小ぶりな花をつける。普通と異なる点は、花の約半分が、メインとなる外側の花より少し遅れて内側の小さな花が開花するというように、2 段階で花を付けることである。クシマザクラには、1 つの花につき、通常、45 枚の花弁があり、満開時は直径 4.5 センチにもなる。

クシマザクラ種もまた、大村公園内の大村神社の境内で、植物学者兼教師である外山三郎（1902–1986）により確認された。外山は、オオムラザクラ（学名：Cerasus serrulata 'Mirabilis'）をこれより 6 年前に確認していた。

大村公園には推定 200 本のクシマザクラの木があり、これらはすべて原木から繁殖させたものである。3 月下旬から 4 月上旬にかけて、大村公園で桜を見るフェスティバルが開催される。クシマザクラの木は、長崎県の天然記念物となっている。